

国際統計協会（ISI）第58回世界統計大会（ダブリン）

櫻本 健*

はじめに

2011年8月21日（日）～26日（土）の期間に行われた、第58回国際統計協会（International Statistical Institute, 以下ISI）世界統計大会（World Statistics Congress）に筆者は参加した。諸外国の研究者、公的機関の関係者が一堂に会し、活発な議論が行われた。日本からも大学の研究者、総務省、日本銀行など多くの会員が参加した。今回の貴重な参加経験を海外統計事情としてまとめる次第である。筆者自身、海外出張はこれで2回目であり、海外での発表は初めてであったため、慣れない中での状況の把握に関して十分な報告かどうか分からないが、誤りがあればご容赦いただきたい。

1. ISI世界統計大会（ダブリン）の概要

2年に一回開かれるISIの世界統計大会は、今回アイルランド共和国のダブリン（会場 Convention Centre）にて開催された。（全体像は把握できていないが）8月中旬からISI傘下の部門も大会を開き、重要な国際会合を行ってきた。例えば、国際公的統計学会（International Association for Official Statistics, IAOS）は、北アイルランドのBelfast（Queen's大学）で8月17-19日の間で特別セッション（テーマ The Ageing Population）を行い、そこから移動してきた関係者も少なからずおられた（筆者は22日から参加した）。

参加者は、公表データによると2310人で、

日本からの参加者は119人と思われる。最も多いのはアメリカで250人程度となっている。報告者数は、表1に示す通りとなっている。日本は参加者数、報告数共に多く、遠い国の割には存在感があった。

セッションはInvited Paper Sessionが124, Special Topics Sessionは72, Contributed Paper Sessionは77となっている（ポスターを含む）。セッションと報告数が多すぎて、網羅的な把握はかなり困難である。そこで、“itinerary system”という大会用のスケジュール

表1 国別報告数

1	United States	172
2	United Kingdom	102
3	France	70
4	Germany	66
5	Italy	63
6	Japan	63
7	Canada	43
8	China	42
9	South Africa	42
10	Spain	39
11	Brazil	37
12	Australia	33
13	Portugal	33
14	Ireland	31
15	Netherlands	25
16	Taiwan	23
17	Austria	22
18	Switzerland	21
19	Denmark	18
20	Republic of Korea	18
	Other	328
	Total	1291

* 立教大学経済学部

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

出所：大会最終日に配られたDaily NewsのTable 1より引用。

ル管理と論文公表を兼ねたシステムが便利である。しかし、連日セッション内の報告者が変更となったり、報告順番が入れ替わるケースが多かったため、状況の把握ができず、正直なところ現地ではやや混乱した。今回24日にWater Dayを設定したものの、セッションがそれほど多くなかったため、この日を境に多くの参加者が減り、会場がややおとなしくなってしまったのは残念だった。立地条件の良さの割に運営の課題があったように思われる¹⁾。

2. セッションに関して

大会のペーパーは、HP (<http://isi2011.congressplanner.eu/>) からプログラムを表示し、それぞれのセッションをクリックすることで要約集と一部論文にアクセスできる。経済統計に関して、多くのセッションが組まれたが、正直なところ公的統計のうち、国民勘定、産業連関表、資本・生産性統計に関連する部局や研究者が、多数出席しているわけではないため、やはりISIでは高度な加工統計よりも包括的な内容が好まれる傾向があると感じた。本報告ではセッションを公的統計関係の主なものに絞って表2としてまとめた。24日は、

表2 公的統計関係のセッション

日にち・時間	Code	セッション名	日にち・時間	Code	セッション名		
22	1	CPS007	23	5	STS050	Surveys and Official Statistics	Methods and quality of administrative data used in a census
22	1	STS062	23	5	STS059	Measuring capital flows (including speculative flows)	R at the introductory level
22	2	IPS014	23	5	CPS038	Improving International Comparisons of Prices and Sizes of Economies	Statistical Production 1
22	3	IPS112	24	1	CPS048	Integration of financial and balance sheet accounts (incl. Flow of funds integrated with the real economy)	Statistical Applications 35
22	3	STS044	25	1	STS003	Methodological aspects on the architecture of official statistics production	The roles of tax data in official statistics
22	3	CPS010	25	2	IPS064	Estimation and Inference in Sample Surveys	Census strategies
22	3	STS060	25	2	STS029	Establishing "agile" statistical tools such as micro databases to facilitate responses to changing user demands	Census Data Capture Issues in the 2010 Population and Housing Censuses
22	5	IPS110	25	2	CPS056	Measuring global external imbalances	Statistical Applications 15 : Regional Studies
22	5	STS011	26	1	IPS025	Developments in Consumer Price Index methodology	Women's role in fighting poverty and the informal economy
22	5	STS012	26	1	IPS029	House Price Indices	Social problems, official statistics and social science
22	5	STS018	26	1	STS030	Migration statistics	Seasonal adjustment in practice
23	1	IPS111	26	2	STS010	Challenges in improving the measurement of the government financial position and in the classification of units as public or private	Developments & Extensions to Tourism Satellite Account
23	1	IPS124	26	2	STS024	The Role of Official Statistics in a Changing Environment	Quality assurance in official statistics : recent developments and challenges
23	1	CPS020	26	2	STS037	Poster Spotlight*	Census Evaluation in the 2010 round of Population and Housing Censuses
23	1	CPS030	26	2	STS065	Statistical Applications 8 : Census and Survey	Future microdata access
23	5	IPS113	26	2	STS070	Revision of financial accounts in conformity with the SNA2008	Trust in Official Statistics

*セッションの時間は、時間帯に応じて便宜的に5つに分けた。

Water Dayと銘打った水に関連した様々なセッションが並んでいる。

本学会の会員の報告も多く見られた。戴艶娟会員、李潔会員、泉弘志会員は、CPS056で報告を行った。伊藤伸介会員は、CPS020というポスターセッションで報告した。作間逸雄会員は、CPS048で報告したが、論文は(セッション変更前の)CPS073に載っている。金融統計関連の報告(STS060-62, 68, IPS110-112)は、アーピング・フィッシャー委員会(Irving Fisher Committee on Central Bank Statistics, IFC)がオーガナイズしており、日本銀行調査統計局(2011)に網羅的にまとめられている。IPS111とSTS062では萩野覚会員(日本銀行)が報告した。IPS113では筆者が萩野会員との共同論文を報告した²⁾。CPS048では張南会員による報告が行われた。

金融関係のセッションでは、一つの背景として金融危機の影響と共に、2008SNAが2014年までにOECD主要国に導入される見通しとなり、欧州勘定体系(ESA2010)も最近ようやく固まっている。つまり、体系そのものの改訂というよりも、新機軸の記録方法の標準化と実務上の工夫に各国に関心が徐々に移りつつあるように感じられた。

むすび

今回ISIに筆者が参加したのは、金融統計のセッションへの参加のお誘いを頂いたのがきっかけであった。国際的な議論の展開を学ぶ貴重で、名誉な機会を与えていただいた関係者の皆様に大変感謝する。日本銀行をはじめ、日本の関係者たちの努力に感じ入ると共に国際標準に向けた日本の貢献が幾つかの点で問われていると感じた。

第1に統計法と基本計画では国際基準との整合性を重視しているにもかかわらず、整合性が求められる場で国際的な認識と異なる議

論が国内でなされるケースが散見される。これは、議論をリードする側の研究者がそれぞれの分野の国際的な状況を踏まえる継続的な取り組みが政府の戦略として欠けているからではないかと感じてきたが、参加メンバーのセッションへの出席状況を見るにつれて、改めてその認識を持つようになった。世界中の国がある分野で協調して一つの取り組みを続けているときに、全く別な課題を取組む国があれば、その国は中長期的に国益を失うことになる。その危機感を日本が認識し、今一度各分野で方向性に問題がないかどうか、確認する努力が重要だと思われる。

第2に確認した限りでは、総務省から3名、日本銀行から4名など各公的統計機関から出席者は少なくなかった。しかし、長期的に特定の人材を各分野に張り付けておく各国の対応と異なって、日本では人事異動によって毎回異なる人材を送る。一部には、精力的な国際貢献が評価され重要な役職に付く方もおられるが、どうしても組織的・戦略的に対応するというよりも、そうした特定の方々のお力に頼らざるを得なくなる。そろそろ個人プレーだけでなく、中長期的に各国の主要な議論を話し合う場に長期的に特定の人材を継続的に貼り付ける取り組みを主要国や国際機関同様に進める必要性を実感した。

表2を見て関心を持った方には、ぜひISIの大会のHPにアクセスし、関心のある議論を参照することを勧めたい。個人的にSTS003の税情報の統計への活用は興味深かった。公的統計における日本と世界の溝を誰がどうやって埋めるのか、という危機感を読者にぜひ伝えたい。さて、今回は2013年に香港、2015年にリオデジャネイロで大会が開かれる。日本から再び多くの参加者が活躍されることを期待している。

注

- 1) デイナーでは、お酒中心で食べられるものが少ないという声は聞かれた。会場では、コーヒーまでの距離が遠くて多くは利用できない、昼食を食べられるところがほとんどなく、近くのカフェにサンドウィッチを食べに行くなどの不便が強いられるなどの課題があった。
一方、会場からは歩いて20分程度でダブリン中心部の主なホテルや市内観光施設、商業施設に出入りできるので、今回の会場は比較的便利な立地であった。個人的には水道の水が飲めて、夜でも一人歩きができる町という点はとてもよかったと思っている。
- 2) 萩野氏は、本学会の団体会員である日銀調査統計局の企画役である。IPS112とIPS 113では、日銀審議役の櫻庭千尋氏が座長を務められた。

参考文献

- 日本銀行調査統計局（2011）「ISI第58回ダブリン大会における金融統計セッションの案内」『日本統計学会会報』148号
- IAOS KYIV 2012 Conference on Official Statistics : <http://iaos2012.ukrstat.gov.ua/>
- ISI Dublin 2011 website : <http://www.isi2011.ie/content/index.php>